

令和6年度学校パワーアップ事業全体構想

学校名

荒川区立第七中学校

学校パワーアップのための基本方針・各事業内容

「一人ひとりの居場所があり、安心して過ごせる学校」の実現に向け、家庭・地域・諸機関・学校が一体となった教育活動を推進し、知・徳・体 調和のとれた生徒の育成を行う。
 ◎カリキュラムマネジメントの視点をもって教育課程を実施し、「主体的・対話的（協働的）で深い学び」を推進するとともに、次の世代の人材育成の基礎を創る。

学力向上マニフェスト	創造力あふれる教育の推進	未来を拓く子どもの育成
○夢につながる主体的な学びを推進する ・家庭学習の定着 eライブラリを活用し、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。 ・英語教育の充実 NEAを継続させ、英語学習の充実を図る。 ・国際コミュニケーション能力の育成 TGG体験を通して、中学校英語の総復習と国際化社会におけるコミュニケーション能力の育成を図る。 ○教師が育つ学校をつくる ・教師が子どもと向き合う時間を確保するとともに、生徒の習熟状況を把握して授業の改善を図る。 採点支援システムを活用し、教員の事務作業の効率化を推進するとともに、誤答を分析して授業改善につなげる。	○こころとからだの健全な育成を図る ・心理教育検査（Q-U、hyper-Q U）を実施するとともに、分析方法や対応についての研修を行い、個に応じた指導を組織的に実践することで生徒の健全育成を図る。 ○体験的な学習活動を通して、よりよい未来社会を築く ・落語の体験や和楽器奏者の演奏、実技指導を通して、日本の伝統・文化への関心・意欲を高める。 ○良好な教育環境と体制を整える ・合唱コンクールに向けて、直接声楽家の指導を受けるとともに、本格的なホールを使用することで音楽に関する関心・意欲の向上と情操教育の充実を図る。	○学校図書館の活用 ・調べる学習コンクールへの取組を充実させ生徒の資料活用能力を向上させる。 ○キャリア教育の充実 ・外部人材と連携し第1学年で校内ハローワーク、第2学年で勤労留学、第3学年でライフプランニングを実施することで、生徒の職業観の醸成を図る。 ○教育環境の整備 ・ボランティア部員を中心に季節に応じた植栽をし、愛校心や自然愛護の精神の育成を図る。 ・各教室に書画カメラを配置することで、全体で共有する場面を増やし、学習の質を高める。 ○体力向上 ・動きやすい体づくりや転倒予防の運動の仕方を学び、体力向上への実践力を高める。 ○防災教育 ・東日本大震災について学び、未来を創造する意欲を引き出すきっかけとなる機会を作る。

令和5年度 全国・荒川区学力調査に関する結果（平均正答率：％）

区学力調査（全学年）

	1年					2年				
	国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
自校	58.3	48.7	63.9	56.0	81.3	65.9	54.3	56.0	53.3	46.9
区	60.2	50.7	67.6	59.5	84.5	64.5	48.3	55.5	49.7	49.8
区との比較	▲ 1.9	▲ 2.0	▲ 3.7	▲ 3.5	▲ 3.2	1.4	6.0	0.5	3.6	▲ 2.9
	3年									
	国語	社会	数学	理科	英語					
自校	64.5	51.0	53.6	42.0	44.6					
区	65.9	49.9	56.1	45.2	50.3					
区との比較	▲ 1.4	1.1	▲ 2.5	▲ 3.2	▲ 5.7					

全国学力・学習状況調査（3年）

	国語	数学	英語
自校	69	52	44
全国（公立）	69.8	51.0	45.6
全国（公立）との比較	▲ 0.8	1.0	▲ 1.6

※学校の結果は整数で示されています。

令和6年度 学力向上マニフェスト

学校名 荒川区立第七中学校

事業名	取組の内容及び目標 (昨年度の区学力調査等の結果・分析等を踏まえて)
夢につながる主体的な学びを推進する	【内容】家庭学習の定着 区学力調査（i-check）の結果から、年々学習習慣が身に付いてきているが、学力の定着率については、特に国数英の3教科で区平均を下回っている。そのため、eライブラリを継続活用し、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。 【目標】 i-checkの学習習慣の項目で、標準スコア全国平均を上回る。また区学力調査においては、3教科の基礎問題正答率を3P上昇させる。
	【内容】英語教育の充実 【目標】 英語の区学力調査の結果から、ほぼ区平均と同等の結果ではあるものの、リスニングについてはやや低くなっている。そのためNEAを継続し、特にリスニングの指導を充実させ、「聞くこと」の正答率を3P上昇させる。
	【内容】国際コミュニケーション能力の育成 TGG体験を通して、中学校英語の総復習と国際化社会におけるコミュニケーション能力の育成を図る。 【目標】 自己表現力を高めるとともに、未来社会を想定した経験をすることで自らの進路に対して計画性をもたせる。また、英語スピーキングテスト（ESAT-J）では、スコアレポート「C」の生徒の増加を目指す。
教師が育つ学校をつくる	【内容】事務作業の効率化による授業改善 採点支援システムを活用し教員の負担軽減を図ることで、生徒理解の充実を図る。また、誤答分析を効率的に行うことで、教員の授業改善に反映させ、授業力の向上を図る。 【目標】 区学力調査（i-check）の「先生のささえ」項目において、標準スコアを3P上昇させる。また、学校評価アンケートの「分かる授業」項目で、肯定値90%を超える。